



HPVワクチンの接種を呼び掛ける吉村名誉教授＝徳島市の徳島大長井記念ホール

HPVワクチン 接種を

徳大で啓発講座「正しい知識学んで」

子宮頸がんの原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染予防を進めるため、HPVワクチン接種を啓発する市民公開講座（徳島大学病院主催、徳島新聞社など共催）が30日、徳島市の徳島大長井記念ホールで開かれた。オンライン参加を含む約90人が、専門家の意見に耳を傾けた。

慶応大名誉教授の吉村泰典氏が講師を務め、近年は20～30代の女性の間で子宮頸がん患者が増えているにもかかわらず、検診率やワクチン接種率が低い現状を説明。接種後の副反応への不安が背景にあるとした上で「ワクチンそのものが原因ではない。緊張や不安が高まったことで接種による

痛み、悪循環が起き、さまざまな体の不調が現れた可能性がある」と述べた。

男性患者が増加している中咽頭がんの予防にもHPVワクチンは効果があると紹介。「全ての若い世代に接種が必要。正しい知識を学んでほしい」と訴えた。吉村氏のほか、医師や同大病院講師、接種経験者によるディスカッションもあった。副反応について接種

後の状況を報告したり、来場者の質問に答えたりしていた。
(矢田諭史)